

平成25年9月4日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 吉野 公一郎  
(コード番号: 4572)  
問 合 せ 先 取締役経営管理本部長 相川 法男  
(TEL : 078-302-7075)

## 簡易株式交換による株式会社ProbeXの完全子会社化に関するお知らせ

当社と、株式会社ProbeX（本社：東京都文京区、代表取締役社長：木村廣道、以下「ProbeX」という）は、平成25年9月4日開催の両社の取締役会において、当社を完全親会社、ProbeXを完全子会社とする株式交換（以下「本株式交換」という）を実施することを決議し、株式交換契約（以下「本株式交換契約」という）を締結しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本株式交換は、平成25年9月26日開催予定のProbeXの臨時株主総会の決議において本株式交換契約の承認を受けたうえで、平成25年10月1日を効力発生日として行う予定です。また、会社法第796条第3項の規定に基づき、当社は株主総会の承認を受けない簡易株式交換として行う予定です。

### 記

#### 1. 本株式交換の目的

当社は、重要な創薬ターゲットであるキナーゼタンパク質にフォーカスして創薬事業及び創薬支援事業を展開しており、創薬事業においては、キナーゼタンパク質を標的とする経口の分子標的薬の創製を行うとともに、創薬支援事業においては、キナーゼタンパク質の製造、販売及びプロファイリング・スクリーニングサービス等の提供を行っております。特にここ数年は製薬企業等における創薬研究の進展に伴い、当社がオンリーワンの創薬基盤技術として積極的に展開しているセルベースアッセイ（細胞を使って行う薬剤評価）に注力してまいりました。その結果、当該セルベースアッセイに関して、米国ACD社、米国CAI社およびオランダNTRC社とそれぞれ業務提携し、それらが開発したセルベースアッセイ技術を創薬研究に活用するとともに、当該セルベースアッセイサービス等を製薬企業等に提供しております。また、独立行政法人国立がん研究センターから技術導入したRPPA（リバース・フェーズ・プロテイン・アレイ）技術による細胞内のシグナルの網羅的解析技術も当社における細胞を用いた創薬基盤技術の強化のなかで技術向上に取り組むとともに、当該技術の独占的な実施契約にもとづきRPPAサービスを製薬企業等に提供しております。

このような状況において、当社は、細胞内のシグナル伝達をリアルタイムに測定する技術が次世代の創薬基盤技術として最も重要であると考え、有用なアッセイ技術について精査した結果、ProbeXが保有する「ブラジル産ヒカリコメツキムシのルシフェラーゼ<sup>(注1)</sup>を遺伝子操作で改良して得られた、検出感度が著しく高いルシフェラーゼを適切な部位で切断して利用する相補型スプリットルシフェラーゼアッセイ技術<sup>(注2)</sup>（以下「本技術」という）」が当社の目的に合致するものであるとの結論に至りました。本技術は、国立大学法人東京大学（小澤岳昌教授）、東洋紡株式会社（本社：大阪市北区）とProbeXとの共同研究から得られた画期的な技術で、小澤教授は本技術開発により平成22年度日本学術振興会賞を授与されています。本技術はすでに日米において特許が成立しており、ProbeXが本技術の独占的な実施権を有しております。本技術を活用する事により、製薬企業等からの要望が大きかった、細胞内のキナーゼが担っているシグナル伝達をリアルタイムに測定することが可能となるものと期待されます。さらに、このような実験用に取り出された細胞内で行うセルベースアッセイにとどまらず、実験

動物の患部でシグナル伝達をリアルタイムに測定する技術の開発にも応用できることから、近い将来、薬物が動物の患部でどの程度効果を発揮しているかを随時測定することを可能とするものです。これは製薬企業等から特に実用化が期待されている技術であり、本株式交換によりProbeXを当社グループに加え、本技術を取り込む事により、当社の創薬研究の効率もさらに大きく向上することが期待されます。ProbeXは、キナーゼタンパク質と同様に重要な創薬ターゲットであるGタンパク質共役型受容体（以下「GPCR」という）<sup>(注3)</sup>のセルベースアッセイに本技術を応用して、GPCR阻害薬やリガンド<sup>(注4)</sup>探索に有用な安定発現細胞を製品化し、製薬企業等に提供しておりますので、これまで当社グループが提供してきたキナーゼタンパク質に加えて、顧客からの要望が強かったGPCRについても、安定発現細胞製品・受託試験サービスの提供が可能となります。これらにより、当社グループの創薬支援ビジネスも大きく成長する見込みです。

(注1) ルシフェラーゼとは、ホタルやヒカリコメツキムシ等の発光生物の体内に存在する酵素で、発光に必要な反応に関与しています。

(注2) 相補型スプリットルシフェラーゼアッセイ技術とは、ルシフェラーゼのDNA配列を適切な部位で2つに分断し、それぞれを細胞内に導入すると、自然界には存在しないルシフェラーゼのタンパク質断片が細胞内に生成されます。このようにして生成したタンパク質断片を総称してスプリットルシフェラーゼといい、これらのタンパク質断片が細胞内で物理的に近づくと、分断されていても発光を回復する現象を活用したアッセイ技術をいいます。

(注3) GPCRとは、細胞の内外を隔てる細胞膜を7回貫通する特徴的な構造から7回膜貫通型受容体と呼ばれ、細胞外からの神経伝達物質やホルモン等を受容して、そのシグナルを細胞内に伝える役割を担っています。全タンパク質中最大ファミリーを形成しているとされ、GPCRは多くの疾患に関与しているため、市販薬の数割がGPCRを標的としているといわれています。

(注4) リガンドとは、細胞の表面に存在する受容体に特異的に結合する物質であり、その代表的なものにホルモンや神経伝達物質があります。

## 2. 本株式交換の要旨

### (1) 株式交換の日程

平成25年9月4日	株式交換契約承認取締役会（両社）
平成25年9月4日	株式交換契約締結（両社）
平成25年9月26日	株式交換契約承認株主総会開催予定日（ProbeX）
平成25年10月1日	株式交換実施予定日（効力発生日）

(注) 今後、本株式交換手続を進める中で、本株式交換の実行に重大な支障となる事態が発生した場合等には、両社間で協議し合意のうえ、日程、手続、又は条件等を変更する場合があります。

### (2) 本株式交換の方式

当社を完全親会社、ProbeXを完全子会社とする株式交換となります。本株式交換において、当社は、会社法第796条第3項の規定に基づく簡易株式交換の手続により、当社の株主総会決議による承認を受けないで行い、また、ProbeXは、平成25年9月26日開催予定の臨時株主総会の決議による承認を受けた上で、平成25年10月1日を効力発生日として行う予定です。

### (3) 本株式交換の株式交換比率

当社は、本株式交換において、ProbeXの普通株式数に、以下の方法により算出される株式交換比率を乗じて得られた数の当社普通株式を割当交付します（以下「変動制株式交換比率方式」という）。

株式交換比率 = ProbeX普通株式1株の価格 1,465円 / 当社普通株式1株の平均価格  
(小数点第5位まで算出しその第5位を四捨五入する)

なお、本株式交換に際し、上記株式交換比率を乗じて得られた数の当社普通株式を新たに発行し割当交付するに際し、1株に満たない端数がある場合、会社法第234条その他の関係法令の規定に基づき処理するものとします。

また、本株式交換実施前において、当社はProbeXの株式を保有しておりません。

#### (4) 本株式交換における株式交換比率の算定根拠

##### ①当社普通株式1株の価格算定方法

当社普通株式は、株式会社東京証券取引所JASDAQグロースに上場されており、市場価値が存在することから市場株価平均方法に基づく分析を行うこととし、東京証券取引所JASDAQグロースにおける、平成25年9月2日(同日を含む)から平成25年9月9日(同日を含む)までの各取引日における当社普通株式の1株当たりの売買高加重平均株価の平均値(ただし、小数点以下を四捨五入とする)に基づいて算出することとしました。

##### ②ProbeX普通株式1株の価格算定方法

ProbeX普通株式1株の価格算定方法は、ProbeXに対する会計及び財務並びに知財専門家等によるデューデリジェンスの結果及び当事者間での協議・交渉の結果をふまえ、その公正性及び妥当性を確保するため、第三者機関であり、当社及びProbeXの関連当事者に該当せず、本株式交換に関して記載すべき重要な利害関係を有しない津田和義公認会計士・税理士事務所、ProbeX普通株式1株の価格算定を依頼しました。

津田和義公認会計士・税理士事務所は、ProbeXが非上場会社であることを勘案したうえで、比較可能な類似上場会社が存在しないことから、ディスカウント・キャッシュフロー法(DCF法)に基づく分析を行い、株式価値の算定(1株当たり1,332円~1,665円の範囲)を行っております。

当社及びProbeXは、この株価算定結果に基づいて慎重に協議を行った結果、本件株式交換における株式交換比率について上記(3)のとおり合意しました。

##### ③変動制株式交換比率方式の採用の理由

本株式交換において、株式交換比率の算出に採用した変動制株式交換比率方式は、株式交換契約締結前後の一定期間における当社株式の市場価格の変動に応じて交換比率を確定させることができるメリットがあり、また、ProbeXの株主にとっては交付される株式の価格変動リスクを回避できるメリットがある等、双方にメリットがあることから、当該方式を採用しました。

##### ④割当の算定となる前提

本株式交換比率算定にあたる前提として、当社及びProbeXにおいて、大幅な増減益、資産及び負債の金額が直近の財務諸表と大幅にかい離することは見込んでおりません。

#### (5) 本株式交換に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

#### (6) その他

##### 本株式交換契約の解除等

本株式交換契約の締結日から効力発生日までの間において、天災地変その他の事由により、当社又はProbeXの財産又は経営状態に重大な変動が生じた場合には、両社協議の上、本株式交

換の内容を変更し、又は本株式交換契約を解除して本株式交換を中止することができることとされています。

そのほか、本株式交換の実行に重大な支障となる事態が発生した場合、又は本株式交換契約の目的の達成が困難となる事態が発生した場合には、本件株式交換契約の効力が当然に失効することがあります。

### 3. 本株式交換の当事会社の概要

	株式交換完全親会社 (平成25年6月30日)	株式交換完全子会社 (平成25年6月30日)																										
(1) 名称	カルナバイオサイエンス株式会社	株式会社ProbeX																										
(2) 所在地	神戸市中央区港島南町一丁目5番5号	東京都文京区本郷四丁目1番4号																										
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 吉野 公一郎	代表取締役社長 木村 廣道																										
(4) 事業内容	キナーゼ阻害薬の創薬基盤技術を用いた製品、サービスの販売、提供(創薬支援事業) および医薬品の研究開発(創薬事業)	分子イメージング用プローブ試薬、細胞・動物の企画・開発・生産・販売・コンサルティング																										
(5) 資本金	2,602百万円(注1)	72百万円(注2)																										
(6) 設立年月日	平成15年4月10日	平成18年7月7日																										
(7) 発行済株式数	79,844株(注1)	144,100株(注2)																										
(8) 決算期	12月31日	3月31日																										
(9) 従業員数	52名	2名																										
(10) 主要取引銀行	山陰合同銀行、池田泉州銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行	みずほ銀行																										
(11) 主要取引先	小野薬品工業株式会社	株式会社エヌビーイー健康研究所																										
(12) 大株主及び持株比率	<table border="0"> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>18.91%</td> </tr> <tr> <td>日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)</td> <td>6.67%</td> </tr> <tr> <td>日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)</td> <td>2.75%</td> </tr> <tr> <td>吉野 公一郎</td> <td>2.68%</td> </tr> <tr> <td>カルナバイオサイエンス役員持株会</td> <td>1.39%</td> </tr> <tr> <td>大阪証券金融株式会社</td> <td>1.37%</td> </tr> <tr> <td>クリスタルゲノミクス社</td> <td>1.34%</td> </tr> <tr> <td>株式会社SBI証券</td> <td>1.08%</td> </tr> <tr> <td>バイオ・サイト・インキュベーション二号投資事業有限責任組合</td> <td>1.07%</td> </tr> </table>	小野薬品工業株式会社	18.91%	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6.67%	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2.75%	吉野 公一郎	2.68%	カルナバイオサイエンス役員持株会	1.39%	大阪証券金融株式会社	1.37%	クリスタルゲノミクス社	1.34%	株式会社SBI証券	1.08%	バイオ・サイト・インキュベーション二号投資事業有限責任組合	1.07%	<table border="0"> <tr> <td>ファストトラックイニシアチブ1号投資事業有限責任組合</td> <td>93.7%</td> </tr> <tr> <td>岡本 将</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td>三浦 研二</td> <td>1.4%</td> </tr> <tr> <td>梅澤 喜夫</td> <td>1.1%</td> </tr> </table>	ファストトラックイニシアチブ1号投資事業有限責任組合	93.7%	岡本 将	1.7%	三浦 研二	1.4%	梅澤 喜夫	1.1%
小野薬品工業株式会社	18.91%																											
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6.67%																											
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2.75%																											
吉野 公一郎	2.68%																											
カルナバイオサイエンス役員持株会	1.39%																											
大阪証券金融株式会社	1.37%																											
クリスタルゲノミクス社	1.34%																											
株式会社SBI証券	1.08%																											
バイオ・サイト・インキュベーション二号投資事業有限責任組合	1.07%																											
ファストトラックイニシアチブ1号投資事業有限責任組合	93.7%																											
岡本 将	1.7%																											
三浦 研二	1.4%																											
梅澤 喜夫	1.1%																											
(13) 当事会社間の関係																												
資本関係	両社の間には、記載すべき資本関係はありません。また、両社の関係者及び関係会社間にも、特筆すべき資本関係はありません。																											
人的関係	両社の間には、記載すべき人的関係はありません。また、両社の関係者及び関係会社間にも、特筆すべき人的関係はありません。																											

取引関係	両社の間には、記載すべき取引関係はありません。また、両社の関係者及び関係会社間にも、特筆すべき取引関係はありません。					
関連当事者への該当状況	両社は、それぞれ関連当事者には該当いたしません。					
(14) 最近3年間の経営成績及び財政状態						
決算期	当社（連結）			ProbeX（単体）		
	22年12月期	23年12月期	24年12月期	23年3月期	24年3月期	25年3月期
純資産（百万円）	1,365	1,019	880	7	9	27
総資産（百万円）	1,656	1,317	1,116	12	15	32
1株当たり純資産（円）	23,257.82	17,359.64	12,098.79	93.10	102.11	236.64
売上高（百万円）	571	592	510	12	11	14
営業利益（百万円）	△398	△393	△457	△1	△9	△2
経常利益（百万円）	△370	△340	△442	△1	△9	△2
当期純利益（百万円）	△397	△361	△449	△2	△9	△2
1株当たり当期純利益（円）	△6,763.89	△6,159.97	△7,328.33	△25.10	△99.67	△25.09
1株当たり年間配当益（円）	—	—	—	—	—	—

(注1) 当社の資本金及び発行済株式数は平成25年9月3日現在であります。

(注2) ProbeXにおいて、平成25年7月1日以降9月3日までの間に、同社第1回新株予約権6,000株（行使に際し出資される財産の価額は1株当たり金1,000円）が行使され、発行済株式数が6,000株増加するとともに、資本金が3百万円及び資本準備金が3百万円増加しております。

#### 4. 本株式交換後の状況

	株式交換完全親会社
(1) 名称	カルナバイオサイエンス株式会社
(2) 所在地	神戸市中央区港島南町一丁目5番5号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 吉野 公一郎
(4) 事業内容	キナーゼ阻害薬の創薬基盤技術を用いた製品、サービスの販売、提供（創薬支援事業）および医薬品の研究開発（創薬事業）ならびにGPCR阻害薬に係る創薬支援事業
(5) 資本金	現時点では確定していません。
(6) 決算期	12月31日
(7) 純資産	現時点では確定していません。
(8) 総資産	現時点では確定していません。

#### 5. 会計処理の概要

企業結合会計基準における取得に該当する見込みですが、のれんが発生した場合における金額及び償却年数など、現時点では確定していませんので確定次第お知らせいたします。

#### 6. 今後の見通し

本株式交換による平成25年12月期の当社連結業績に与える影響は、現在精査中であり、影響を与えることが判明した場合には、速やかに公表いたします。

以上